

## コント『フランケンシュタイン』

### 登場人物

フランケンシュタイン（F）

怪物（K）

セット＝怪物の寝ている台

下手に鏡

台の横にレバー

天の声	雷の音。暗闇に声。  11月のあるわびしい夜。それはフランケンシュタインの手により完成させられた。しかし、全ての情熱と苦勞をかけて造ったそれは、彼を一瞬で絶望させることになったのだ。
F	明転  さあ、あとはこのレバーを操作するだけだ。2年という歳月を費やしてとうとうここまで来たのだ。さあ目覚めよ、人の手で創り出したる生命体。  ガチャン（レバーを操作） 雷の音  暗転
天の声	雷鳴とともに命が吹き込まれた。それはまさに人がする神の業だった。しかし、神ですら同じ人間を作れないことは、誰もが知ることではなかったか、  明転
K	ああ、、んん、（うめき声）

怪物の上半身が起き上がる

F ああ、、なんてことだ、、まさかこんなものを造ってしまふなんて。恐ろしい。(恐怖に引きつった感じで)

K おまえか？ オレを生み出したのは。(威厳を持った雰囲気)

F ああ、こんなことになるなんて。動き出して分かったこれは怪物、、(最後のセリフに被せるようにKが話し始める、やたらとハイテンションで)

K 超スゲーじゃん。おまえマジかよ。オレ確かに生きてるぜ。ナザレのマリアが処女でイエスを身ごもったけど、おまえは男一人でオレを生み出した。ってことはオレはある意味この時代の救世主か！ クウ～、クール！ 「世紀末救世主伝説、『おまえはもう死んでいる』」(ケンシロウが言うような雰囲気)、クウ～

F 何を言っているのか恐怖で全然入ってこない。だいたい生まれて初めて自分と対比する例にキリストなんて持ち出す奴おるんか？ それに、「おまえはもう死んでいる」と言われた側の容姿やないか。

K おいおいちょっと待てよ。オレが秘孔突かれて「ヒデブツ」(セリフ風に)前やって言うんかよ？ もしそんな姿やとしたら、、おまえに肩パンチするぞ。

F ああ、要らんこと言ってしまった。あんな奴にパンチされたら、、、どうしよう

Kが下手の鏡を見て固まる

F ああだめだ。もう終わりだ。

K はあ、、ははは（鏡を見ながら自分の顔を確認するように指を這わす）  
ざんし〜ん ははは、スゲーじゃねえかよオヤジ。

F ああ怖い。一体どっちの意味の「すげえ」なん?? 待てよ、斬新とか言ってたけど、そもそもこいつ生まれたたてで言葉の意味分かってんのか??

K おいオヤジ、おまえ『ムンクの叫び』知ってるよな？

F ああ、またやばそうなこと言いだした。  
知っ、知ってますよ。

K オレがこの顔で『ムンクの叫び』したらどうよ？

F 怖すぎる〜 何こいつ、心を恐怖で崩壊させようとするタイプ？

K それだよ！ おやじのその反応。いいか、これは凄えクールなことだぜ。この顔で『ムンクの叫び』って言っただけで、一体どれだけの人間の心をぶっ飛ばせるんだ？ まさに革命だよ。それもこの容姿あつてのことだ。オヤジ、おまえは神よりも創作力あふれる男だぜ。斬新すぎるよ。

F あ、そっちの意味の斬新なん?? というか、自分の顔見て凹まんってことは、一体オレの顔はどう見えとるんや？  
  
KがFの方を見てニヤつく。

F してやったりの顔しやがった。どう考えてもしてやられまくった奴が。

K おいオヤジ、おまえはマジで大した奴だよ。どう思う？  
2年を経てここまで来た気持ちは？

F ええー、どの口が質問してんねや。  
いやもう後悔しかないです！ 帰りたいです！

K ハッハッハ。エキサイティング！

Fは「はあ？」という顔

K オレのボキャブラリーの広さに驚くなよ！

F こいつマジで言ってんのか??

K おまえはこの上ない斬新な姿を造り、そして類まれな  
頭脳をオレに与えてくれたわけだ。

F 確かに生まれたてとは思えんほどよく喋るけど、何自  
分で類まれな頭脳とか言ってんねん。

K オヤジ、オレは自分のハンパねえ知識と頭脳をマジで  
気に入ってるんだ。  
ところでおやじ、あんたの名前は？

F フラ、、（言おうとしてすぐにセリフをかぶせられる）

K フランケンシュタインなわけだが。

F 何で聞いときながら言わせてくれんねん。

K ところでオレは何だ？

F かいぶ、、（すぐにかぶせられる）

K 怪物だな。

F ええ、、何なんこれ？

K そうだ、ところで日本ではオレのことを？

F フラン、、（すぐにかぶせられる）

K フランケンシュタインだと思っている人が多いわけだ。

F まだやりますか。

K フフッ、どうだいオレのトーク力は？

F 何を得意になってるんや！

K しかしおやじよ、オレとの会話を俯瞰してみてみろよ。自分が作った息子の賢さに目を丸くするぞ。

F どのポイントで第3者目線を例に出してんや？そんなことできませんので。

K 何？ できへんの？

F どうしてこんな状況を、第3者の気持ちで考える気になりますか。

K いや違うな。第3者の気持ちのことを言ってるんやない。俯瞰とはこうするんや。

Kが顔をビヨ〜んと3メートルほど上に持ち上げる。

F うわー 怖すぎるー そんなことできるわけないやん。

K はっはっは。だよな〜 オレの冗談いかついだろ？考えてもみろよ、首が伸びる仕様の人間なんているか？それが自分にあるとしたらテンション上がってしゃあ

ないやろ？

F どこでテンション上がってはんのやろか？  
ええっと、もしかして自分のこと気に入ってはりま  
す？

K はあ？ 何を今更。嬉しすぎてオヤジに接吻したいく  
らいやで！

F 怖～

K 生きてる実感。これが嬉しくなくてどうする？

F マジっすか？

K それにどうよ！ オレの名前は何だった？

F かいぶ、、（すぐにかぶせられる）

K 怪物だったな。

F まだするんかよ。

K 名前が無い。このことが悲劇だったのは小説の内容だ  
ぜ。例えばオレが人に名前を言わなければならない時、  
オレはこう言ってやるんだ「この顔が印籠代わりだ」。  
クウ～、痺れる～。

F 怖～

K そしてある時オレがピンポンダッシュをしてバテてし  
まったとしよう。そこのおばちゃんは「あんた名前  
は？」と凄んでくる。その時どうするんだ？

F ええ、どうする、、（すぐにかぶせられる）

K 「名前が無いから言えません」って言えるやないか。  
通るやん、嘘やないんやから。

F 何マジになって言っとんのやコイツは。

K つまりオヤジはオレに斬新な容姿、最高の頭脳、何があってもブレない身分を与えてくれたわけだ。フランケンシュタインの小説でもオレはとても高貴な存在として描かれてるだろ？

F 確かに高貴な存在やけど、誰がフランケンシュタイン読んでそんなポジティブな面を楽しむんや！  
こいつどこまで前向きやねん？

K 誰からも愛される存在、オレ。

F いや、誰もが離れていくところが物語のポイントや。

K いや～ 街に出てもモテモテになるんやろうな～ オレのテクニカルなトークで、、  
クウ～、エロいぜ。

F こいつの想像するエロさって、、あかん考えたら震える。

K オヤジ、オレは知識の宝庫やから、生まれながらにして夜の方もかなりテクニカルなんやで！

Kがエロそうな顔をFに見せつける

F テクニカルって何やねん。腹立つな一。  
というか、自分に腹立ってきた。こいつ何やねん。

K さ～て、そろそろ出かけるかな。テクニカルな足取りで、テクニカルな口笛でも吹きながら、テクニカルに口説いて、テクニカルな夜を過ごそう。

F わざと言ってるな。  
確かに頭だけはエエのかもな。

K よっしゃ～ おやじ。そろそろ行かせてもらおうわ。テクニカルにこの台から飛び降りてな。

勢いよく飛び降りようとするが、足がしっかりできてなくて、そのまま頭から転けて絶命する。

F え！ マジ？？ 斬新～

e n d